慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

新しい医療国際協力 新ＭＥＪがスタート

内閣官房健康・医療戦略参与　山本　修三（外38回）

本年2月、安倍首相の施政方針演説の一節に「世界に誇る国民皆保険が育んだ、わが国の医療サービスに、さらに磨きをかけ、国際的な医療協力なども通じて、世界に積極的に展開してゆく」という表現が入った。これによって、経済成長戦略の中に、医療は重要な分野として位置づけられた。この医療戦略を推進する体制として、内閣官房内に健康・医療戦略室が設置され、私を含め11人の健康・医療戦略参与が任命された。この参与会議で、政府から医療戦略を推進する2本の柱が示された。1つの柱は、日本版NIHの創設で、基礎研究、臨床研究のコントロールタワーとして、広く医療分野の研究を推進すること、2つめの柱は、医療国際協力を進めるために、民間の窓口として、一般社団、MEJ（Medical Excellence Japan）を改組し、官民一体となってこれを推進する、である。私はこのMEJの理事長に任命された。

医療の国際協力とは、わが国の良い医療サービスをパッケージとして、それを求める国の求める形で提供し、維持してゆくことが基本である。これによって、相手国と相互互恵の関係で、安倍首相の言うwin,winの関係を進めてゆくことになる。すでに安倍首相のトップセールスを背景に、ロシア、アブダビ等のプロジェクトが動きつつあるが、官民一体となって世界にこの事業を進めるためには、内閣官房を中心に、関連省庁、医療産業界と連携、協力は勿論、何よりも相手国の医療関係者と対応できるわが国の医師の協力支援が必須となる。すでに50を超える医療機関から協力するという申し出を頂いており、嬉しい限りであるが、なお一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げる次第である。

江戸時代、蘭学として西洋医学が導入され、その後の変遷を経て、戦後はアメリカ医学を中心に取り入れてきたわが国の近代医学・医療は、国民皆保険によって日本独自の医療に育まれ、世界に誇れる医療機器、技術など、今これを必要とする国に提供できる時代を迎えている。これからの医療国際協力によって、相手国と良き関係の中で、わが国の医療もさらに発展してゆくことを望んで止まない。

新生ＭＥＪ発足記念式典

安倍首相、アブダビの高官と（右から3番目が筆者）

慶應義塾大学医学部三四会 平成25年度定例評議員会

6月15日（土）の午後2時から4時30分まで、2号館（旧称、新棟）11階大会議室に於いて平成25年度定例評議員会が開催された。水野副会長の開会の辞の後、吉野議長が登壇し、まず、出席者数83名、委任状103名は全評議員数の過半数を超えて、会則第20条3項の定足数を充たし評議員会が成立することが確認された。川城 副議長によるタイムキーピング、三四会準会員である学生代表として四谷自治会委員長岡本泰治君（5年生）の陪席等の新企画紹介が議長によりなされたのち、平成24年度物故会員107名に対して黙祷が捧げられた。

次に、議長による比企三四会会長の慶應義塾連合三田会会長就任の報告後、会長より、最初は固辞したものの塾全体のために就任を決意した経緯とともに、医学部創立100年記念新病院棟建設事業を含めて現在の三四会活動に関して、平成25年度からの活性化への方針が述べられた。

議案については、第1号議案　平成24年度三四会事業報告（古梶理事）、第2号議案　平成24年度三四会会計決算（末岡副会長）、第3号議案　財産目録　会計事務処理並びに財産管理監査報告（菅沼監事）の各議案につき審議が行われ、承認された。古梶理事は事業報告の中で、第1回初期臨床研修医修了式報告および昨年10月に開催された連合三田会大会での三四会講演会（比企会長出演、メルボルンオリンピックボートクルーによる講演会）報告などの他に、評議員からの感想・意見として、相当の三四会員数減少や、高額な医学部授業料に対する奨学金制度などが示された。末岡副会長からは、支出につき三四会館建設特別会計に2000万円が繰入れられたことが報告された。

第4号議案　平成25年度三四会事業計画（案）（リー副会長）は、審議され承認された。リー副会長からは基本的には昨年度と同様に計画を実行していく旨の説明後、平成25年度からの変更・確認事項につき説明があった。まず三四会奨励賞の表彰を平成26年度より慶應医学会総会から北里記念式（平成26年度は6月12日）に変更することになり、それに伴い平成26年2月頃から候補者の募集予定であること、今年度の連合三田会大会は比企会長が連合三田会会長に就任された記念すべき年でもあることから、例年の救護部会運営のほかに、全塾的視野のもと、全塾員対象の講演会、健康相談・ミニレクチャーを継続して行うこと、その担当が今年は64回生であることの説明があった。

引き続き末岡副会長から、三四会館移設計画につき説明があった。2号館11階東側に三四会、慶應医学会、関連病院会の3団体で共同利用するスペースが新設され、評議員会当日、内覧可となった三四会会員が集えるラウンジも併設すると説明された。会長からは医学部100年記念新病院棟建設事業募金につき、塾創立150年記念事業から現在までの経緯説明とともに、新病院棟建設のための募金目標額が300億円であり、塾（法人）の積立140億円と病院収入60億円の充当が予定されるが、残りの100億円は三四会員をはじめとする全塾員および企業等からの寄付を募ることが必要なため、その理解と協力を求められた。比企会長の発言に対し、寄付金の額や支払い方法・周知方法などにつき質疑があり、これに対し、会長より寄付はあくまでも自由意志であること、小口、分割も可能であること、三田評論への掲載、医学部新聞での周知など、具体的には、会長・議長のもとで進めるとの説明があった。

第5号議案　平成25年度三四会会計予算（案）については、末岡副会長から、全体説明の他、三四会館建設特別会計へ、前年度同様、2000万円の積立資金を支出することが提案され、承認された。

議案審議終了後、この年度より新たに設立された三四会社会功労賞の授与式が行われた。授賞に先立ち、水野副会長より会則5条3項に則り、本功労賞が設立された経緯が説明された。菊池辰夫君（44回）・菊池信太郎君（75回相当）と竹村賢次君（27回）が受賞され、それぞれ、スピーチが行われた。

引き続き、医学部・病院報告が末松誠医学部長から行われた。内容は、まず自身の抱負として、アジアの中で埋没しつつある義塾からの脱却を目指して、人造りに励むこと、財の独立、教職員との開かれた議論等による塾の活性化基本方針などであった。また、国試合格率の向上、白衣式、グローバルコミュニケーションスキルの向上、再生医学、日本版NIH拠点認定を目指していること、食育イニシアティブなどについての報告もあった。

新宿区騒音条例により信濃町キャンパスでの部活制限されている医学部体育会に対する医学部の対応についての質問に対して、医学部長より信濃町キャンパス全体でしっかりフォローしていく旨の説明があった。

閉会の辞では末岡副会長より、広い地域・年代からの出席に対するお礼および今後の益々の本会活性化への期待が述べられた。

その後、隣室にて情報交換会が行われ、多くの評議員の出席のもと和やかで活気のある会となった。

速報　末松誠医学部長（医化62回）4期目決定

平成25年7月1日に開催された臨時教授会にて、医学部長の選考が行われ、末松誠教授が選出された。任期は2013年10月1日から2年間で、末松教授の選任は4期目となる。

【末松医学部長のコメントは、新病院長を含む新体制決定後、新執行部と併せて掲載する予定です】

第1回 三四会社会功労賞受賞者

菊池 辰夫 君
菊池 信太郎 君
「東日本大震災後の郡山市における医療体制の再構築と『子どものケアプロジェクト』設立」

竹村 堅次 君
「わが国の精神科医療・福祉の近代化に関する功績」

前立腺がん啓発イベント〝PSAスクリーニングキャンペーン〟開催

本年5月26日に、前立腺癌の早期発見のための啓発イベント〝PSAスクリーニングキャンペーン〟を開催したのでご報告致します。現在、前立腺癌は欧米諸国において、男性の癌罹患率第1位の主要な癌ですが、本邦でも増加傾向にあり、2020年に男性の癌罹患率第1位になることが想定されています。早期発見できれば手術・放射線療法により完治が可能になってきましたが、本邦においては前立腺癌への関心がそれほど高いとは言えず、早期発見のためのPSA（Prostate Specific Antigen：前立腺特異抗原の略で前立腺癌の腫瘍マーカー）検診の暴露率が低く、未だに癌が進行した状態で見つかる患者さんが多い現状です。

この現況を鑑み、前立線癌の早期発見・PSA検診の重要性を伝える啓蒙活動を通して地域医療に貢献したい、と大家教授をはじめ泌尿器科教室員は強い思いを抱き、武田病院長に相談させていただいたところ、無料検診を組み合わせた公開講座の開催は慶應病院では前例がなかったのですが、快諾して頂き、更にがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの一環として大学病院主催で開催できるようご配慮いただきました。臨床検査部・臨床検査技師の方々、ならびに医療事務室の方々の多大なるご尽力もあり、約1年半の準備期間を経て、北里講堂において〝PSAスクリーニングキャンペーン〟の開催へとなりました。

キャンペーンの案内は、慶應病院ホームページや慶應病院内・新宿区医師会の病院・医院・信濃町商店街、JR信濃町駅でのポスター掲示・配布により周知し、事前の申込制としました。当日は幸いにも天候に恵まれ、76名の参加がありました。

最初の1時間の市民公開講座では、大家教授の情熱ある分かりやすい講演に、参加者は非常に熱心に聞き入っていました。その後医師による問診後にPSA採血を講堂後方で行いましたが、事前の予約・予行の成果もあり、円滑かつ無事に施行できました。

参加者に対するアンケートの集計結果からは、検診の重要性が理解できた、家族や友人に勧めようと思った、慶應病院主催の公開講座にまた参加したい、という声が多く聞かれ、反響の大きさを痛感しました。教室員一同、今後も癌早期発見に対する啓蒙活動を継続し、少しでも地域住民の皆様の医療福祉の向上に貢献したいと考えております。

（小坂威雄　79相当）

大家教授による講演

問診・採血の様子

第100回生涯教育研修セミナー「小児の外科up-to-date」

第100回生涯教育研修セミナーが平成25年6月8日（土）午後3時より日比谷東京会館（9階ローズルーム）にて開催された。本セミナー委員会副委員長村田満先生の開会の辞並びに医学部長補佐福田恵一先生のご挨拶につづいて黒田達夫小児外科教授がモデレーターを務め、「小児の外科up-to-date」の主題にて講演が行われた。

慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー委員会、慶應医師会、慶應義塾大学医学部三四会、慶應医学会そして中外製薬株式会社が共催した。本セミナーは約33年前から年3回開催されており、途絶える事無く、今回で100回の記念すべき会のへの関心は高く、多くの診療科の枠を超えた卒業後の諸先生方ならびに関係諸氏の参加を得た。

講演（1）「近年の小児形成外科のトッピクス」（形成外科学教室貴志和生先生）では、頭蓋骨縫合早期癒合症による頭蓋内への影響を如何に避けるべきか、頭蓋の開放による頭蓋内圧減圧とその後の形成術、口蓋裂への生後2月からの早期治療の提唱、さらに複雑な軟口蓋、硬口蓋の複雑な異常に対する積極的な取り組みなどが紹介された。また、巨大色素性母斑の診断・治療では三次元CTを超えた四次元CTの開発により組織の外形から深達部および進展部が術前に評価され、的確な手術が可能となったことが紹介された。

講演（2）「小児泌尿器科の挑戦：小児泌尿器科疾患への非侵襲検査と低侵襲治療」（泌尿器科学教室浅沼宏先生）では、尿路および生殖器の水腎症、停留精巣などの先天的良性疾患に対する検査・診断法ならびに低侵襲治療法や治療器具の開発が紹介された。特に、先天性水腎症では、胎児USにて腎盂の拡張が確認されてから的確な分腎機能の推移を「成長とともに判断」して手術の適否を決定している実際が紹介された。

講演（3）「胎児治療から成育医療へ：小児外科の展開」（外科学（小児）黒田達夫先生）では、①胎児に対する医療の現状、②出生前診断の光と闇、③先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児治療、④先天性嚢胞性肺疾患に対する胎児手術などのテーマが紹介された。加えて胆道閉鎖症術後や直腸肛門奇形術後の成人期の問題などが示され、ライフサイクル全体をカバーする成育医療の概念が紹介された。成育医療の実現には臨床の総合力の発揮に加えて、倫理的側面の強化が重要であることも強調された。

最後に特別発言として医学部小児科学高橋先生による「周産期・成育クラスター構想と新しい医療への期待」の講演が行われた。胎児から小児診療の臨床では、周産期を含め、小児の発達に加えた成育期までに広げ、各疾患の治療において集学的治療を提唱された。疾患とともに、患者は成長しており、年齢にとらわれない患者へのアプローチを行う医療チームが必要であり、総合的な多診療科の協力体制の構築の必要性が話された。

参加者は150名におよび、昨今の小児外科の臨床の最先端を学習したが、特にこの分野では生まれる前（胎児から）から始まっており、経過を見る事に始まり、成育の適切な時期を選び、倫理的な問題へ医療者が十分な社会のコンセンサスを得ながら治療の実践する全人的かつ根気のいる臨床である事に筆者は感銘を受けた次第であった。

（文責・セミナー委員　大山廉平　外52回）

慶應義塾大学病院　各種お問い合わせ先
・初診予約（午前9時～午後7時、第2・4・5土曜日は午後5時まで）
三四会ホットライン
TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）
医療機関用
TEL 03-3353-1257　FAX 03-5843-6167
WEB「病院ホームページ」→「予約問合せ一覧」→『「医療機関からの初診予約」―「Webによる予約」―【医療機関からの予約専用フォーム】』へ
・検査予約（午前8時30分～午後5時）
PET/CT…TEL 03-5843-6165
SPECT …TEL 03-5843-7071
・予防医療センター：人間ドック（午前8時30分～午後5時）
TEL 03-6910-3533

時間外選定療養費の徴収について

7月1日から、休日・時間外の救急外来を受診される患者さんのうち、入院を必要としない緊急性の低い患者さんについては、時間外選定療養費8,400円を徴収致します。ただし、救急車で来院された患者さん、救急外来受診後入院された患者さん等については、徴収対象外とします。

患者の皆様に安全で質の高い医療を提供するための、時間外選定療養費の徴収について、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

子供が元気に育つメニュー

今回のメニューのテーマは子どもの成長に必要な栄養素をたっぷり盛り込んだ物になっています。さらに気をつけたことは子どもの好きな形をとりながら素材を工夫して何とか魚や野菜をおいしくとってもらおうと考えたメニューです。

近年、ファーストフードの普及から子どもの食事が偏まなくてもすむ形態で炭水化物や脂質に偏った物が目立ちます。子どもの成長にとって、良質の蛋白やビタミン、カルシウムをたっぷりとってバランスのよい食餌の大切さは周知のこととなっています。

今回のメニューでは魚を中心にカルシウムやビタミン、良質な蛋白をとれるように考えた物です。

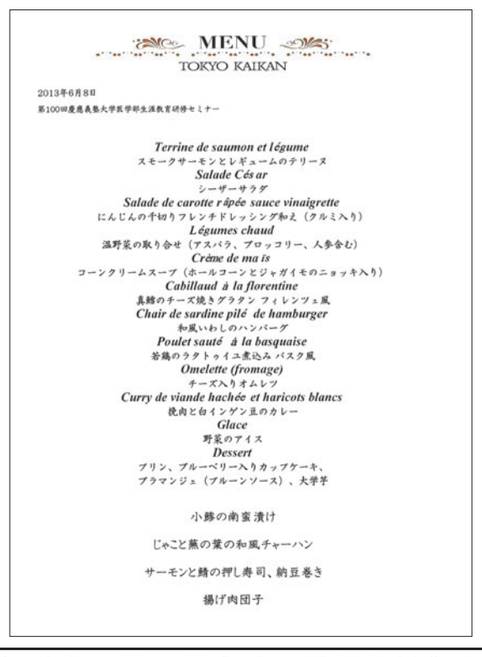
スモークサーモンはDHAをはじめナイアシンなどの豊富なビタミンも摂取できます。温野菜ではアスパラギン酸の豊富なアスパラガスやビタミンA、E、C等も豊富です。肉団子は不足しがちなビタミンB1が豊富な豚肉で。

シーザーサラダには粉チーズが使われています。ビタミンAの豊富なにんじんは吸収しやすいようにフレンチドレッシングであえて、子どもの脳に必要なω3系が豊富です。

魚3種類は子どもに食べやすくDHA、EPAを摂取できるように考えました。鶏肉の蛋白と子どもの好きなトマト味をさらに野菜接種するためにラタトイユ風に。栄養素や繊維がバランス良く含まれるコーンのスープの中にジャガイモのニョッキを入れて栄養をアップ。

完全食品のタマゴのオムレツ。とりにくい豆をカレーにして。子どもの好きな押し寿司。納豆は苦手でも海苔巻きにすると食べやすい。カルシウムの豊富な2種類を使ったチャーハン。

野菜もアイスクリームならとりやすく低カロリーに。卵を使ったプリン。カップケーキには目のためにブルーベリーを。ブランマンジェは鉄の豊富なプルーンソース。子どもの頃のなつかしいおやつの代表…大学芋をおまけに。


MENU
TOKYO KAIKAN

2013年6月8日
第100回慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

Terrine de saumon et légume
スモークサーモンとレギュームのテリーヌ
Salade César
シーザーサラダ
Salade de carotte râpée sauce vinaigrette
にんじんの千切りフレンチドレッシング和え（クルミ入り）
Légumes chaud
温野菜の取り合せ（アスパラ、ブロッコリー、人参合む）
Crème de maïs
コーンクリームスープ（ホールコーンとジャガイモのニョッキ入り）
Cabillaud à la florentine
真鱈のチーズ焼きグラタン フィレンツェ風
Chair de sardine pilé de hamburger
和風いわしのハンバーグ
Poulet sauté à la basquaise
若鶏のラタトゥイユ煮込み バスク風
Omelette (fromage)
チーズ入りオムレツ
Curry de viande hachée et haricots blancs
挽肉と白インゲン豆のカレー
Glace
野菜のアイス
Dessert
プリン、ブルーベリー入りカップケーキ、
ブラマンジェ（プルーンソース）、大学芋

小鯵の南蛮漬け

じゃこと蕪の葉の和風チャーハン

サーモンと鯖の押し寿司、納豆巻き

揚げ肉団子

鑑賞知来

信濃町から荒木町を過ぎて外苑東通りを北へ進んでいくと、旧尾張藩上屋敷跡の小高い丘に防衛省がある。昨年の9月から、医系技官として奉職していた厚生労働省から、こちらに出向している。内局の「衛生監」という背広組のポストで、戦後にシビリアンコントロールとなる前は、軍医総監（中将・かつては森鴎外もその役にあったという）であったそうだ。有事に備える組織としての防衛省では、医療を担う医官を、かつては外部から採用していたが、充足率は2割程度だった。そのため、昭和47年に、当時の武見医師会長のご尽力も得て防衛医科大学校が設立され、教授陣には塾医学部関係者も多い。それに加え、16ある自衛隊病院と各種の衛生関係の部隊が小生のポストの担当である。就任して約10カ月だが、昨今の北東アジアの緊迫した情勢をふまえると、今まで以上に重要視すべき点があると思われる。従来は、隊員の平時からの健康管理のほか、災害や国際平和協力隊などの衛生の確保が大きな役割であったが、これからは、有事や生物・化学兵器などによるテロも視野に入れる必要がある。その際には、事象による損耗や負傷者の後送・治療など、複雑な運用を頭に描いておかなければならない。さらには、国内の平時を想定した各種の衛生法規についても、有事に自衛隊の医療が効果的に行われるよう、一定の見直しが必要とされるかもしれない。もはや、ダチョウのように、「砂に頭を埋めていれば見たくないものは見なくて済む」といった贅沢が許される時代ではなくなったということなのだろう。医療の世界は、自衛隊が関係するものであっても、自衛隊だけで完結できるものではない。災害では、民間の派遣医療チームと役割分担しながら協働する必要があるし、有事でさえも、場合によっては、民間に後方医療への協力をお願いする場合もあろう。東日本大震災以降、自衛隊に対する支持は広がりつつあり、こうした面での三四会員の先生方からのご支援を願えたらと思う次第である。

（防衛省　鈴木康裕　衛63回）